

LEXUS TEAM ZENT CERUMO

2017 AUTOBACS SUPER GT Report SUPER GT in KYUSHU 300km

第3戦 オートポリス

ZENT CERUMO LC500

#38 立川祐路／石浦宏明

◆5月20日（土） QUALIFY

公式予選総合結果 8位（1分40秒207）

<公式予選>天候：晴れ コース状況：ドライ

歓喜の今季初勝利から2週間あまり。2017年のSUPER GTは第3戦オートポリスを迎えた。2016年は熊本地震の影響で残念ながら中止となってしまったラウンドだが、今季は2年ぶりの開催。LEXUS TEAM ZENT CERUMOは第2戦富士優勝の勢いを保ちながら、大分県日田市のオートポリスに乗り込んだ。



ZENT CERUMO LC500は第2戦での優勝により、29ポイントでランキング3位につけているが、2017年のレギュレーションでは、ウェイトハンデが50kgを超えた車両は車載ウェイトとともに、燃料流量リストラクターが制限されることになっている。58kg相当のウェイトハンデとなったZENT CERUMO LC500は今回、通常時の95.0kg/hに対し、92.4kg/hという燃料流量リストラクターで臨まなければならない。

LEXUS TEAM ZENT CERUMOはそんな状況を踏まえ、快晴に恵まれた5月20日（土）午前9時にスタートした公式練習に臨んだ。ここでまずは立川



LEXUS TEAM ZENT CERUMO

祐路がステアリングを握りコースインし、20周を周回。また石浦宏明は12周を周回。交代しながら ZENT CERUMO LC500 のフィーリングを確かめていった。



途中、2回のレッドフラッグが提示された公式練習だが、午前10時35分からはGT500クラスの専有走行がスタートした。ここでは石浦が ZENT CERUMO LC500 のステアリングを握り、午後の公式予選に向けたアタックを展開していくが、ストレートでは燃料流量リストラクターが効いているのか、他車に追いつかれてしまう。タイムも石浦が記録した1分35秒444がベストで9番手。やはり燃料流量リストラクターの影響は大きいかもしれない……。とはいえ、チームは予選に向けてハンデを跳ね返すべく、調整を続けていった。

迎えた午後1時50分からのGT500クラス公式予選Q1。LEXUS TEAM ZENT CERUMO は石浦にステアリングを託し、まずはQ2進出を目指した。残り7分というところでコースインした石浦は、公式練習とは異なるタイヤを装着し、やや重さを感じながらも、残り1分というところで1分35秒084というタイムをマーク。アタック途中、#17 NSX-GT がクラッシュしており赤旗が提示されるのではないかとヒヤリとしたが、見事3番手でQ2の立川にバトンを繋いだ。

GT300クラスのQ2を経て、午後2時35分にスタートしたGT500クラスのQ2。石浦から ZENT CERUMO LC500 のステアリングを受け継いだのは立川だ。これまでオートポリスで5回ものポールポジションを獲得している立川だけに、さらなるポジションアップにも期待がかかる。



LEXUS TEAM ZENT CERUMO

立川は入念にタイヤを温め、いざアタック開始。ただ、立川の前を走っていた#36 LC500 がターン 14 でコースアウトを喫してしまう。現場に差しかかった立川は十分なマージンをとってコーナーを通過し、1分34秒841というタイムをマーク。これで ZENT CERUMO LC500 のポジションは4番手となった。

このオートポリスラウンドの予選では#100 NSX-GT がポールポジションを獲得し、レクサス LC500 勢は#1 LC500 の3番手が最上位。ZENT CERUMO LC500 の4番手は、燃料流量リストラクターのハンデを負っているマシンのなかでは最高の順位だった。決勝を考えても、ベストなポジションにつけた……と思っていたのもつかの間、予選後なんと ZENT CERUMO LC500 にベストタイム抹消のペナルティが課されてしまった。

これは、国際モータースポーツ競技規則 付則 H 項 2-2.4.5.1b のなかに記された『減速義務違反』によるもの。立川は安全な速度を保っていたつもりだったが、コースアウト車両がいる区間でその減速が充分ではなかった……というものだ。

この裁定により、残念ながら ZENT CERUMO LC500 のタイムは抹消され、4番手から8番手に降格となってしまった。とはいえ、ZENT CERUMO LC500 にハンデを感じさせない速さがあることは確認できた。目標であるチャンピオンのためにも、5月21日（日）の決勝レースでの追い上げに期待がかかる。



ドライバー／立川祐路

「今日の流れとしては、順調にこなすことができたと思っていました。予選に向けてクルマもどんどん良くなっていきましたしね。アタックでは#36がコー

LEXUS TEAM ZENT CERUMO

スアウトをしていたので、黄旗が振られていたのも見えていて、自分としてはマージンをとってその場所を通過しました。その場所で減速したのもあったので、自分としてはもう少しタイムを出したいところもあったのですが、最終的には減速が不十分だったということで、ベストタイムが抹消されてしまったのは残念でした。もっと前にいけるポテンシャルはありますので、明日は追いつげたいと思います」

ドライバー／石浦宏明

「今回ウェイトハンデが厳しくなっていますが、公式練習の専有走行のときにアタックした際、予想していたとおりかなり厳しい印象を受けました。データ上でも遅くなっていますし、燃料流量リストラクターの影響を感じましたね。ただ、コーナー自体は重さは感じるものの悪くなさそうだったので、予想よりも前にいくことができると思いました。予選Q1では周囲も苦しんでいたようで、予想していたよりもポジションは良かったです。まわりのハンデが多いクルマに比べても ZENT CERUMO LC500 は良さそうな印象でした。今日の流れとしては、自分たちが目指していた感じにはできていたのかな、と思っています」



浜島裕英監督

「タイム抹消になってしまったのはルールなので仕方がないですね。イエローフラッグという不運はありましたが、燃料流量リストラクターのハンデを負っているレクサス勢のなかではベストタイムをマークすることができたので、クルマの仕上がりはとていいのではないかと考えています。8番手からの追いつげにはなりますが、レースではまずは完走して、ベストなポジションでフィニッシュすることができればと思っています」

LEXUS TEAM ZENT CERUMO



LEXUS TEAM ZENT CERUMO

予選結果表

Rank	Car No.	CarName	Q1 Time	Q2 Time
1	100	RAYBRIG NSX-GT	1'34.333	1'33.740
2	46	S Road CRAFTSPORTS GT-R	1'35.270	1'34.331
3	1	DENSO KOBELCO SARD LC500	1'35.227	1'34.749
4	16	MOTUL MUGEN NSX-GT	1'35.635	1'34.858
5	37	KeePer TOM'S LC500	1'35.305	1'35.025
6	6	WAKO'S 4CR LC500	1'35.549	1'35.675
7	36	au TOM'S LC500	1'34.962	1'37.949
8	38	ZENT CERUMO LC500	1'35.084	1'40.207
9	12	カルソニック IMPUL GT-R	1'35.675	
10	19	WedsSport ADVAN LC500	1'36.025	
11	23	MOTUL AUTECH GT-R	1'36.296	
12	64	Epson NSX-GT	1'36.737	
13	24	フォーラムエンジニアリング ADVAN GT-R	1'36.820	
14	8	ARTA NSX-GT	1'36.961	
15	17	KEIHIN NSX-GT	1'44.816	

No.38 Y.Tachikawa Q2 のベストタイム削除(H 項 2-2.4.5.1b「減速義務違反」)

No.6 A.Caldarelli Q2 のベストタイム削除(H 項 2-2.4.5.2b「減速義務違反」)